

高等学校 令和8年度（2学年用）		教科	家庭	科目	家庭基礎
教 科：	家庭	科 目：	家庭基礎	単位数：	2 単位
対象学年組：	第 2 学年 A 組～	H 組			
使用教科書：	「新家庭基礎 気づ力、築く未来」				
教科	家庭	の目標：			
【知 識 及 び 技 能】		生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解し、それに係る技能を身に付ける			
【思考力、判断力、表現力等】		生涯を見通して生活の中から問題を見出して課題を解決する力を身に付ける			
【学びに向かう力、人間性等】		様々な人々と協働し地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとする			
科目	家庭基礎	の目標：			

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域の生活充実向上を図るために実践しようとしている

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 これからの人生について考える ・自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解できるようにする。・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描けるようにする。 第2章 人生をつくる ・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることや、さまざまな生き方について理解できるようにする。将来の充実した生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。 ・社会制度としての家族や家族と法律を理解できる。 ・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。 ・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるにはどのような社会を実現すればよいか、考えて実践できるようにする。	家庭科の学び方 1 自立と共生 2 ライフキャリア 3 共に生きる家族 4 家族に関する法律 5これからの家庭生活と社会	〔知識・技能〕 自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を通して生活課題に対し意思決定していくことの重要性について理解を深めている 〔思考・判断・表現〕 ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活、自己の意思決定に基づき責任もって行動することについて、課題を設定し、解決策を構想し、実践・考察するなどして課題を解決する力を身につけている 〔主体的学習に取り組む態度〕 生涯の生活設計や青年期の課題について主体的に取り組み、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている	○	○	○	12
	第6章 食生活をつくる ・よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。 ・配膳やマナーに関心を持つ。・郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけ、和食の献立で自分の食事を準備できるようにする。	1 日本の食文化の形成 2 私たちの食生活 3 食品の選び方と安全 4 食事の計画と調理 5 調理実習①	〔知識・技能〕 ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活、食品の調理上の特性、食品衛生をふまえ、自己や家族の食生活の計画・管理及び調理に必要な技能を身につけている 〔思考・判断・表現〕 自己や家族の食事を工夫できるとともに、食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活を営む力を身につけている 〔主体的学習に取り組む態度〕 食生活の課題などに主体的に取り組み、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている	○	○	○	12
	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 ・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。	課題の把握とテーマ設定、実施計画	〔知識・技能〕 ホームプロジェクトの活動意義と実施方法について理解している 〔思考・判断・表現〕 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、課題を設定し、解決策を構想し、実践・考察するなどして課題を解決する力を身につけている 〔主体的学習に取り組む態度〕 生活上の課題などに主体的に取り組み、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている	○	○	○	1
	定期考査			○	○		1
	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践、発表を通じて評価し改善につなげようとする。	実施後のまとめと発表 評価と改善	上に同じ	○	○	○	2
	第6章 食生活をつくる ・栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深め自分や家族の健康維持に役立てる。・各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解し、自分と家族の食生活を計画・管理できるようになる。・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。 ・世界の食文化に関心を持ち、私たちの食生活への影響について理解する。・中華風の献立で多様な食材、調理法を知る。・安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断できるようになる。	1 世界の食文化の形成 2 栄養と食品のかかわり 3 食事の計画と調理 4 調理実習② 5 これからの食生活を考える	〔知識・技能〕 ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活、食品の調理上の特性、食品衛生をふまえ、自己や家族の食生活の計画・管理及び調理に必要な技能を身につけている 〔思考・判断・表現〕 自己や家族の食事を工夫できるとともに、食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活を営む力を身につけている 〔主体的学習に取り組む態度〕 食生活の課題などに主体的に取り組み、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている	○	○	○	8

2 学 期	第3章 子どもとかかわる ・子どもの発達に応じて適切に関わるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。 ・子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察を通して、子どもの特長や子育てに対する理解を深める。 ・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。 ・子どもが健やかに育つ社会福祉について考え、実践しようとする。	1 子どもとは 2 子どもの発達 3 子どもの生活 4 子どもをはぐくむ 5 子どものための社会福祉	〔知識・技能〕 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもを取り巻く社会環境、子育て支援についての知識および乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身につけている 〔思考・判断・表現〕 子どもを生み育てることの意義について考えることができ、子どもの健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の課題を解決しようとする力を身につけている 〔主体的学習に取り組む態度〕 子供の健やかな成長のための課題に主体的に取り組み、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている	○	○	○	10
	第4章 高齢者とかかわる ・高齢社会の現状を理解する。 ・高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。 ・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。 ・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。 ・超高齢社会の課題を踏まえて、自分自身の高齢期をよりよく生きられるようにするとともに、地域社会の一員として高齢者との関わり方を考え、行動しようとする。	1 高齢社会を生きる 2 高齢者を知る 3 高齢者の自立を支える 4 高齢社会を支えるしくみ	〔知識・技能〕 高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護についての知識及び生活支援に関する基礎的な技能を身につけている 〔思考・判断・表現〕 高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性についての課題を解決しようとする力を身につけている 〔主体的学習に取り組む態度〕 高齢者の課題などに主体的に取り組み、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている	○	○	○	2
	第5章 社会とかかわる ・誰もが自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 ・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。 ・私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていけばよいか、考えて実践しようとする。	1 支えあって生きる 2 共生社会を生きる	〔知識・技能〕 社会福祉の意味や現状を知り、社会福祉制度のしくみについて理解し、適切に活用できる知識と技能を身につけている 〔思考・判断・表現〕 生涯を通した社会福祉制度について、現在の生活課題と関連させて考えることができる。 〔主体的学習に取り組む態度〕 生活や社会の課題などに主体的に取り組み、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている	○	○	○	4
	第8章 住生活をつくる ・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支え生活拠点となる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。 ・自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。 ・日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって、大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。 ・持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。	1 人間と住まい 2 住まいの文化 3 住まいを計画する 4 健康に配慮した快適な室内環境 5 安全な住まい 6 持続可能な住まいづくり	〔知識・技能〕 ライフステージに応じた住生活の特徴、防犯などの安全や環境に配慮した住居の機能ついて理解し、適切な住居の計画・管理に必要な知識や技能を身につけている 〔思考・判断・表現〕 防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境を工夫できる 〔主体的学習に取り組む態度〕 住生活の課題などに主体的に取り組み、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
3 学 期	第7章 衣生活をつくる ・健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。 ・被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。 ・手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解する。 ・環境に配慮した衣生活について考え、実践できる力を身につけるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。 ・持続可能な衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。	1 人と衣服のかかわり 2 衣服の素材の種類と特徴 3 衣服の選択から管理まで 4 持続可能な衣生活をつくる	〔知識・技能〕 ライフステージに応じた住生活の特徴、防犯などの安全や環境に配慮した住居の機能ついて理解し、適切な住居の計画・管理に必要な知識や技能を身につけている 〔思考・判断・表現〕 防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境を工夫できる 〔主体的学習に取り組む態度〕 住生活の課題などに主体的に取り組み、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている	○	○	○	9
	第9章 消費行動を考える 第10章 経済的に自立する ・自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 ・消費者には権利と責任があることを理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。 ・消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考えて実践しようとする。 ・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。 ・大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため、家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて理解する。 ・持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。 ・人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。	1 消費行動と意思決定 2 消費生活の現状と課題 3 消費者の権利と責任 4 ライフスタイルと環境 5 暮らしと経済 6 将来のライフプランニング	〔知識・技能〕 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解し、生活情報を適切に収集・整理できる 〔思考・判断・表現〕 持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な社会と消費について問題を見出して課題を設定し、課題を設定し、解決策を構想し、実践・考察するなどして課題を解決する力を身につけている 〔主体的学習に取り組む態度〕 消費行動と意思決定や持続可能なライフスタイルと環境の課題などに主体的に取り組み、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている	○	○	○	12
	定期考査 無し 被服作品制作を考査に替える						合計
							78